

http://www.engineer.or.jp/c_dpt/nucrad/

原子力・放射線部会

会報



日本原子力研究開発機構櫛葉遠隔技術開発センター(NARREC)見学会
リアルとオンライン併用(2項①(3)、5項②参照)

1. 部会長挨拶	和田 隆太郎	P. 2
2. 部会活動状況と事例紹介		
2022 年度活動報告		
① 活動全般		P. 3
② 合格者歓迎会		P. 3
③ 部会会合の回数		P. 3
④ 講演会・見学会		P. 3
3. 部会新幹事の紹介		P. 5
「部会幹事ってどんなことしているの？」		
4. 2023 年度全体会議		P. 6
5. 活動トピック		
① Web 化の推進		P. 6
② Web 見学会		P. 7
③ 学会出展報告		P. 8
④ 委員会における技術士 PR 活動		P. 8
6. 技術士試験合格者		P. 8
7. 会長表彰受賞者のコメント		P. 9

1. 部会長挨拶

部会長 和田 隆太郎

部会員の皆様

アフターコロナには『刷新』という言葉が最も似合っているように思われる。本年(2023 年)5 月 8 日に新型コロナウイルス(COVID-19)の感染症法上の位置付けが5類感染症相当となり、コロナ禍は収束しつつある。2020 年 1 月以降、我々は外出制限等の感染症対策を経験した。しかし、日本では流行が始まって 1 年未満の 2020 年末頃には最初のアストロゼネカ社製のウィルスベクターワクチンが輸入されて接種が始まった。日本ではその後、モデルナ社製・ファイザー社製の mRNA ワクチンが次々と輸入され、我が国では瞬く間に殆どの国民にワクチン接種が進められた。因果関係は明確ではないが、現代の科学技術により開発された各種ワクチンの高い接種効果により、約3年余の期間でコロナ禍は沈静化に至ったものと予想される。少なくとも現時点では、過去のペストやスペイン風邪よりも短い期間、低い死亡率で沈静化に至ったと思われる。これらは現代における人類の科学技術力と日本の経済力と治世・統制力による恩恵と思われ、有難く思う次第である。

さて、上述の通り、国民生活は平常を取り戻しつつあるが、原子力・放射線部門を取り巻く環境は様々である。原子力分野の原子炉関連では安全性対策を施した核分裂炉のうち加圧水型(PWR)の再稼働は進んだ。福島第一原子力発電所の事故から 12 年となるが、沸騰水型(BWR)の再稼働はまだ果たせていない。原子炉アップストリームの核燃料サイクル施設も従来の状態を十分に取り戻しておらず、ダウンストリームでは施設の稼働が進んでいない場合が多い状況である。他方で、世論では気候変動問題を起点とする原子力エネルギー利用の見直しが進み、事故時に自律的な炉心冷却ができる静的安全系を備えた次世代原子炉(所謂、革新型原子



炉)や第4世代原子炉(Gen-IV)の新設を期待する声がある。しかし、当部門は主に体力的な理由でまだその対応に着手できていない状況にある。核融合炉の技術開発は鋭意進められているが、その実証炉の建設は 2050 年代と予想され、まだ解決していかなければならない技術課題が多く残っている状況である。

一方、放射線分野では、種々の前進があった。医療加速器を利用した PET 検査や放射線照射等によるガン治療では世界のトップに並ぶ状況にある。それに加え、最近では加速器で製造した短半減期線放出核種による RI 内用療法の開発も進んでいる。また、生命科学研究等に活用できる東北大学・次世代放射光施設の整備も進んでいる。

上述の背景の中、当部会の運営も変革と刷新の途上にある。コロナ禍では不自由を感じる機会は多くあったが、その反面としてオンライン会議システム等のデジタル活用の普及は目覚ましいものがある。これにより地域等の遠隔地間のコミュニケーションが容易となり、その利用は当部会の運営上でも重要なポイントとなっている。今後、更にその環境整備を進め、その活用方法を拡大・高度化していきたい。その反面、近い場所においてもコロナ禍で人と人が出会って触れ合う機会が少なくなってしまった。人と出会うことで感動することや、情報を得て知識を拡げることが重要である。また、対面で魂をぶつけ合い、意気投合することによる信頼の和の拡大することも重要である。当部会では人と人が触れ合う場を提供するために、例会講演会の内の何回かはハイブリッド開催※にしたいと考えている。また、ハイブリッド開催のリアル会場は、コロナ前と同様に我らの事務局がある機械振興会館の会議室とする予定である。

しかしながら、ハイブリッド開催には予行演習等の準備が必要である。また、その開催自体も WEB 開催に比べれば多くの幹事の手間を要する。さらに、放送拠点となるリアル会議室に付属される放送・映像設備次第では開催には新たな機材の手配等が必要となる可能性もある。

ハイブリッド開催は必ず実現したいと考えている

が、開催に至るまでしばし時間の猶予を頂きたい。
また、開催できるようになってからの運営方法は今後鋭意検討していきたい。

本年も引き続きご協力・ご支援をお願いし、冒頭ご挨拶とさせていただきます。

※ハイブリッド開催：例会講演会において会議室でのリアル開催とWeb配信によるオンライン開催を同時に執り行う会合をいう。

2. 部会活動状況と事例紹介

2022 年度活動報告

幹事 菊池 裕彦

本部への 2022 年度の活動報告内容を以下に記す。

① 活動全般

2022 年度の原子力・放射線部会では、2021 年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けたが、「技術士認知度向上及び技術士数増に向けた活動」や「自己研鑽を推進する活動」を実施するとともに、コロナ禍における活動を推進、地方からの積極的な参加を目指し、IT 対応の強化を図った。その一環として Web 見学会を実施した。

(1) 年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

全体会議を 6 月 17 日に Web 開催し、2021 年度の活動を報告するとともに、2022 年度の活動方針を説明、意見交換を行った。幹事会を Web で 6 回開催し、方針に沿った具体的活動の進め方、企画内容、対応方針等について議論した。

(2) 講演会等

原子力・放射線部門の技術士として学ぶべき項目として、「原子力発電所の廃止措置から発生する放射性廃棄物の処理処分について」、「原子力はどこへ向かうのか～時代の転換期の中で考える」などをテーマにオンラインで計 6 回開催した。

(3) 見学会

福島第一原子力発電所の廃炉作業の推進に向けた技術開発状況を学ぶために 10 月 5 日に

「櫛葉遠隔技術開発センター(NARREC)リアル及び Web 見学会」を開催した。廃炉作業の実規模モックアップ試験設備等を見学した。現地だけでなく遠方からも参加できるように、当日リアルタイムでライブ配信を実施するとともに、翌週には VTR でオンライン配信を行い、多くの参加者に見学いただけた。Web 見学会は初の試みであり、コロナ禍の中、見学先との事前調整、機材の準備等に多くの労力を要したが、無事開催できたことは IT 化において大きな前進であった。

(4) その他

技術士制度の学生への認知度向上と受験奨励のために原子力又は放射線関係の学科のある大学に対して、技術士会と原子力・放射線部会を紹介するパンフレットを配布した。また、同様の目的で日本原子力学会春の大会に出展した。リアル出展は 4 年ぶりであったが、多くの来場者を迎えることができ、好評であった。コロナ禍で近年低調であった部会員同士の交流も図ることができた。

さらに、原子力、放射線に関する正しい知識の普及のため、原子力学会が進めている学校教科書のレビュー活動に協力し、コメント、提言を取りまとめているところである。

② 合格者歓迎会

日時：2022 年 4 月 28 日午後

開催方法：Web

合格者参加者数：4 名

③ 部会会合の回数

役員会：6 回

講演会・見学会：8 回

④ 講演会・見学会

以下の通り 8 回実施した。講演名部分が詳細報告へのリンクとなっている。延べ 457 名に聴講、見学いただくことができた。

第 78 回技術士の夕べ	
日時	2022 年 4 月 28 日

講演名	ハイパーカミオカンデで探る素粒子と宇宙
講演者所属	東京大学宇宙線研究所
講演者	平出 克樹
参加者数	61
Web 配信	有
前半資料、後半資料	

第 79 回技術士の夕べ	
日時	2022 年 6 月 17 日
講演名	福島第一原子力発電所における ALPS 処理水の海洋放出に関する計画について
講演者所属	東京電力ホールディングス 福島第一廃炉推進カンパニー
講演者	松本 純一
参加者数	75
Web 配信	有
前半資料、後半資料	

第 80 回技術士の夕べ	
日時	2022 年 8 月 26 日
講演名	福島第一原子力発電所周辺の放射能について-事故後の放射能の推移-
講演者所属	福島大学 環境放射能研究所
講演者	鳥居 建男
参加者数	80
Web 配信	有
前半資料、後半資料	

第 81 回技術士の夕べ	
日時	2022 年 10 月 5、12 日
見学会名	NARREC 見学会
解説者所属	原子力機構(JAEA) NARREC
解説者	野崎 信久
参加者数	73
Web 配信	有

資料

第 82 回技術士の夕べ	
日時	2022 年 10 月 21 日
講演名	商業炉の解体廃棄物の処理処分の進捗状況について
講演者所属	エネルギー総合工学研究所 原子力技術センター
講演者	平井 輝幸
参加者数	40
Web 配信	有
資料 1、資料 2、資料 3	

第 83 回技術士の夕べ	
日時	2022 年 12 月 16 日
講演名	福島第一原子力発電所廃炉研究開発の現状
講演者所属	国際廃炉研究開発機構(IRID)
講演者	奥住 直明
参加者数	54
Web 配信	有
資料	

第 84 回技術士の夕べ	
日時	2023 年 2 月 10 日
講演名	原子力はどこへ向かうのか～時代の転換期の中で考える
講演者所属	日本経済新聞社
講演者	滝 順一
参加者数	71
Web 配信	有
資料	

3. 部会新幹事の紹介

福島県浪江町で頑張っています

神谷 栄世

【神谷技術士事務所、2014 年合格】

2014 年 5 月に技術士に入会しました。選択科目は放射線防護です。富士電機(株)で放射線システムの仕事に従事、定年を迎え福島県浪江町に移住、大熊町の建物解体の仕事を経験したのちに神谷技術士事務所を開業して2年になります。福島復興の役に立てればとの思いはあるのですが、ひとりの住民として被災者の方々と一緒にラジオ体操などを楽しんでいるところです。今回は幹事に就任して、企画班と防災支援委員会に参加することとなりました。いずれも、福島復興に繋げることを模索しながら、積極的に参加することを心掛けて行きたいと思っています。福島県に住んでいますので、東京を中心とした活動には支障をきたすことがあろうかと思いますが、ご理解頂きたいお願い申し上げます。一方で、福島在住であることをメリットとして活動できればと思っていますので、よろしくご指導願います。



新米幹事ですが、微力ながら社会貢献をできればと思います

森 孝弘

【東京エネシス、2021 年合格】

2023 年 1 月より幹事を拝命しました森 孝弘と申します。JAEA 楢葉遠隔技術センター見学会のリアル開催での参加でご縁があり、お声をかけて頂きました。幹事を拝命してからはや6か月、いまだに全体が見えず役員に皆様にはご迷惑をおかけしている次第でございます。仕事を1つ1つ着実に覚え最終的には、指導される側から指導する側になりたいと考えております。又、技術士会が催すイベントには可能な限り参加し、様々な方と交流する中でそのパワーを吸収したいと思います。今回、嬉しい事に私も含めて新任の幹事が4



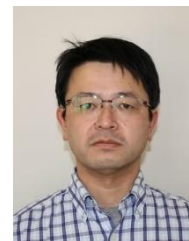
人増えました。幹事はいればいるほど、新しい斬新なアイデアや企画が増え部会の活性化につながると思っていますので、部会員の皆様の中で少しでも興味がある方は、是非私ども幹事にお声がけください。最後に技術士会は、社会に向けて様々なメッセージを発信するスキームと考えております。私もその技術士会の一員として微力ではございますが、お役にたてればと考えておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

技術継承の一助として

中村 雅弘

【日本原子力研究開発機構、2021 年度合格】

一昨年度、技術士 2 次試験に合格し、企業内技術士としての一步を踏み出しました。いずれの原子力関連企業でも、既に顕在化している問題として、技術継承があると思います。技術士の制度はその企業内外における人的つながりにおいて、有効な解決策となるであろうイメージはあるのですが、イデオロギーの域を脱していない感もあります。様々な方との情報交換を通じて、技術継承の一助となるべく、具体策を見出したいと考えています。



異分野での取り組みから

藤原 英司

【(国研)農研機構、2020 年度合格】

皆様初めまして。私は農業分野の研究所に所属し、環境放射能研究や放射線管理業務に従事しています。原子力・放射線分野からすると、全般には縁遠い職場ですが、研究者の立場で、研究炉を利用する分析、放射性核種の計測法開発や環境分布調査に取り組みました。また、原子力施設立地県における放射線モニタリングについての委員会の委員担当など、原子力に関係する社会的活動もおこなっています。自己研鑽の一つの方向として、技術士二次試験の受験



を思い立ちましたのは、試験制度がコンピテンシー重視の形へ変わったタイミングでした。異分野の出身、技術士としても新参で、幹事を拝命というのは大変恐縮に思われるところですが、部会の活動へ貢献できるように頑張ります。よろしくお願いいたします。

●部会幹事ってどんなことしているの？

年 6 回(1回/隔月)開催している幹事会の様子を紹介するコーナーです。代表的なものは CPD 企画の立案、実行までのフォローです。講演会や見学会のテーマを何にしようか、その講師をどなたに、開催地をどちらにするか。他部会の方々を含め、なるべく多くの会員に参加してもらうための施策の検討、当日の役割分担などを決めています。

また、別の班では、全体会議(6 月開催)で決めた方針に沿って、会員の技術士活動をサポートするために役割分担しながら作業を行っています。見学会の立案のほか、技術士を PR するための大学説明会や学会の展示などの企画運営もそのひとつです。部会のメンバーにとどまらず外部の方々とのパイプをつくることできるチャンスにもなります。

これらの検討経緯や、検討資料は適時部会ホームページに掲載していますので、お時間あるとき、ぜひご覧いただければと思います。

[\(⇒こちら\)](#)

また幹事に興味のある方もぜひご連絡やご意見ください。

(文責: 幹事 勝田昌治、白川正広)

4. 2023 年度全体会議

2023 年度は以下のとおり開催した。

日時:2023 年 6 月 23 日

場所:Web 開催

内容:

- (1) 令和 4(2022)年度の活動実績報告
- (2) 第 1 号議案 令和 4(2022)年度の決算報告(案)について
- (3) 第 2 号議案 令和 5(2023)年度事業計画および予算(案)について

資料:

- [令和 4\(2022\)年度活動報告](#)
- [第 1 号議案資料-2022 年度会計の決算報告](#)
- [第 2 号議案資料 1-2023 年度の事業計画案](#)
- [第 2 号議案資料 2-2023 年度の予算案](#)
- [2022 年度事業報告\(事務局提出報告書集約\)](#)

5. 活動トピック

① Web 化の推進

Web 化の推進は、全体会議で部長から本部会の活動方針として示されたものである。

部会としては、従来から地方連携等を目的として、コロナ禍以前から Web 化を推進してきており、講演会(技術士のタベ)については機材の充実化などにより、リアル(Live)とオンラインのハイブリッド開催を実施してきた。2020 年度以降は、コロナ禍対応として、さらに Web 化の推進を図るべく、対応をきっかけとして、部会としては 2020 年度からさらに Web 化を推進し、2022 年度には次項に示す Web 見学会(JAEA 櫛葉遠隔技術開発センター)を開催した。

一方で、講演会や見学会の Web 開催においては、配信技術や事前準備などの課題に加え、質疑などの双方向性も十分でないことも実感してきたところである。今後は双方の長所を勘案して、基本的にはハイブリッドでの講演会・見学会を志向する。以下、2023 年度の Web 化推進の方針である。

アフターコロナ取り組み（案）¹

- Teamsを利用したオンライン会議、WEB講演会の活用（利便性継続）
 - 参加者の負荷軽減
 - 地域連携の促進
- 一方でリアル(Live)開催が重要なことも明らか(開拓精神)
 - 人と出会うことによる自らの可能性の拡大
 - Liveで感動することも重要
 - 魂をぶつけ合い、意気投合することによる信頼の和の拡大



- 人と人が触れ合う場を提供
- 例会講演会は、ハイブリッド開催へ
- Web見学会は、リアル & Web見学会の開催へ

2023年度の基本活動方針(案)⁴

- Web例会講演会はハイブリッド例会講演会に順次移行
 - 環境と機材を用意周到に地道に準備する。
 - 当面は情報セキュリティ上、機微なテーマは避ける。
- Web見学会はリアル & Web見学会に移行
 - 条件に見合った訪問先を調査・選定する。
 - 容易化のための配信の取捨選択と合理的方法を検討して探索する。
- 対外説明は、相手側事情に整合して活動
 - 大学説明会はWEB/リアル説明を開催予定。
 - 学会ブース出展はWEB出展で実施予定。
 - 組織啓発活動は、相手先状況見合いで実施したい。
- 部会報の執筆・月刊技術士への投稿
 - 部会報は、2023年8月に出版予定
 - 個の技術士が月刊技術士を執筆することを推薦して応援
- 上記の環境整備・開催等に向けた準備や要領は、ハイブリッド役員会（定期は6回/年）で議論する。

一方で心配な点もある²

- Teamsを利用したハイブリッド例会講演会の開催は、配信技術的に容易ではない。（特に、質疑応答時の双方向性）
- 2022年度のWeb見学会は完遂したが、非常に大変だった。収穫も多かったが、容易化する方向での課題解決が重要。



- 双方向性のあるハイブリッド例会講演会の開催に向けて、用意周到に地道に準備する。
 - 環境の整った会議室の探索と確保
 - 機材とマニュアルの整備
- リアル & Web見学会を周到に計画して開催に漕ぎつける。
 - 条件に見合った訪問先の調査と選定
 - 容易化のための配信の取捨選択と合理的方法の探索

本部の対外活動促進費の確保に伴う
大学説明、学会ブース出展³

- 大学説明は、
 - 大学説明は、認知度向上と勧誘活動の原点
 - 2023年度は、従来+αの大学での開催を目指して推進
 - 但し、相手（大学側）の意向確認とその高揚が重要
- 学会ブース出展は、
 - 2023年春の学会ブース出展（東大駒場）は、なかなかの盛況。
 - 技術士を志す方の来場も、多かった。
 - 大型液晶Vの試験的な投入も、一定の効果があつたとの感触。
 - 一定の費用が必要であり、本部予算の確保が前提。
 - 2024年春の原子力学会（近畿大学）でのブース出展を目指す。
 - 上記では、タイトル紙、貼付ポスターを改良して臨みたい。

② Web 見学会

幹事 岩原 光太郎

2020 年以降、コロナ禍により「リモート XX」が急速に広がっている。原子力・放射線部会では、この環境下において、従来対面で行っていた見学会をリモートで実施可能とするべく、「Web 見学会構想検討 WG」を立上げ、2021 年から議論を進めてきた。途中行動制限などの影響で工程見直しを余儀なくされたが、2022 年 10 月に JAEA 櫛葉遠隔技術開発センター(NARREC)の見学会および CPD 企画の実施に至った。多くの参加者に見学していただき、技術的にも内容的にも有意義な活動となった。一方で、見学会企画を通して、事前に見学形式をよく検討すること、事前撮影データを準備すること、高性能な機材を使用することが教訓として得られた。

具体的には以下のスケジュールで推進した。

- (1) 見学先の選定(2021 年 2 月)
- (2) 調整事項リストの授受(2021 年 3 月)
- (3) 見学先との対面打合せ(2021 年 12 月)
- (4) 拠点案検討(2022 年 5 月)
- (5) 現地リハーサル(2022 年 6 月)
- (6) 日程調整(2022 年 7 月)
- (7) 対面+リモートに決定(2022 年 8 月)
- (8) 日程確定、広報開始(2022 年 8 月)



図 1 JAEC 櫛葉遠隔技術開発センター (NARREC)

No.	名称	日時 時間	分組(人数)		申込	費用			資料	回答(NARREC費)別	No.	開催 場所
			A	B		H	席 費 1	席 費 2				
1	開会のご挨拶	6m	S			①	②		新しい試みとしてWebによる見学会を開催します。本日は初回として、櫛葉遠隔技術センター NARRECのみで開催いたします。			無し
2	プログラムと 製作スタッフ 講師の紹介	3m	S			①	②		早退ですが今回見学会をご案内するスタッフを紹介します。			
			S			①	②		「産業に紹介、環境にサテライト」NARRECにてご案内いただく(詳細)様になります。よろしくおねがいします。			無し
			S			①	②		使用機材ですが、.....			

図 2 Web 見学会進行表 (サンプル)

詳細は月間 PE4 月号参照。

https://www.engineer.or.jp/members/c_cmt/kouhou/topics/001/attached/attach_1406_6.pdf

③ 学会出展報告

幹事 白川 正広

2023 年 3 月 13 日～15 日、原子力学会春の年会在 4 年ぶりに会場(東大駒場キャンパス)で開催された。部会としても技術士の認知度向上、受験者数増加を目指し、4 年ぶりに現地でリアル出展を行った。

新たな試みとしては、大型モニターをレンタルして、部会活動、技術士の説明などを随時放映し、出展ブース来訪者の目を引いた。前日の準備も含め、部会員 10 人余りが交替で説明対応を行い、部会の活動をアピールするとともに、部会員同士の交流を図ることができた。

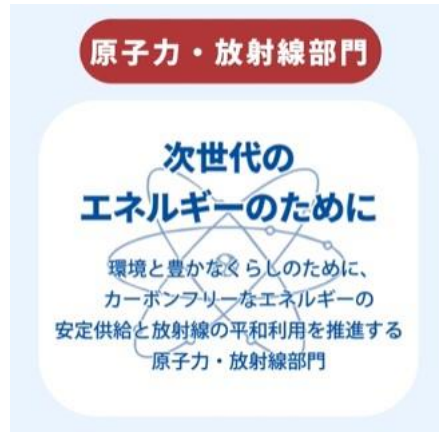


④ 委員会における技術士 PR 活動

幹事 勝田 昌治

産業界や政官学などへ、技術士をより一層知ってもらうことを目的とした PR 動画が作成されました(技術士資格活用委員会のホームページ⇒[こちら](#))

まだ視聴されていない方は一度ご覧いただき、個や企業内における技術士活動の中でぜひご利用願えればと思います。



「動画(2) 技術士の専門分野」より
(動画(2)の 1 分 30 秒前後に表示されます)

6. 技術士試験合格者

技術士受験に挑戦する方を支援していきたいです

岡本 成利

【日本原子力研究開発機構(JAEA)、2022 年度合格】

この度、原子力・放射線部門の技術士試験に合格しました岡本成利と申します。現在、主に高速炉用 MOX 燃料施設の安全設計、特にグローブボックスの耐震設計、遮蔽設計及びこれらに係る許認可業務に携わっています。



受験の動機は、近年、会社の他部署から設備の新設・更新の際の安全設計に関する考え方や、具体的な設計・評価手法について相談を受けることが多くなりました。それに伴い、自分の役割や責任も大きくなってきたと実感し、今後も期待と信頼に応えるためには、技術士資格を取得することが最適であると考え、技術士の受験を思い立ちました。

受験対策は、専門分野以外の知識の蓄積に加え、

筆記試験や口頭試験の設問に対して、技術士に求められるコンピテンシーをどう表現していけば良いか苦労し、しばらく試行錯誤が続きました。幸い、JAEA 技術士会の先輩のご指導により、無事に合格することができました。

今後は、専門分野に捉われず、幅広い知識・技術の向上のため継続研鑽に励み、視野と人脈を広げていきたいと存じます。また、近年の技術士受験者数の減少に鑑み、技術士受験に挑戦する方を支援するようなお手伝いができればと思います。ご指導のほど、よろしくお願いします。

日々奮闘しています

増田 文紀

【北海道電力、2021 年度一次試験合格】

私が技術士試験を受けようと思ったきっかけは、現在、原子力発電所の業務に携わっており、原子力・放射線の知識を深め、業務の役に立てられればという思いからです。実際、試験勉強を



してみると、専門科目以外にも基礎科目、適正科目があり、技術士には様々な技術的な知識や適性が必要ということがわかりました。特に適性科目は最新の情報からも出題されるので、幅広い知識を的確に覚えておく必要がありました。結果として一次試験は合格しましたが、まだまだ技術的な知識や経験は乏しく、日々新しい技術や知見を得て、技術の発展に向けて努力しなければならないと感じています。

技術士試験を通して得られた知識は、業務の役に立っていますが、更なる技術的な知識の向上・発展に向けて日々奮闘していければと思っています。これからもよろしくお願いします。

7. 会長表彰受賞者のコメント

日本技術士会 2023 年度会長表彰(第 2 号)として、原子力・放射線部会から、以下の3名の方が「会長表彰」を受賞されました。

丸下 元治 様

青山 敬 様

西村 丹子 様

受賞に際していただいたお言葉を以下に掲載いたします。

技術士会に入会して 10 年以上たちました

丸下 元治

【IHI、2012 年合格、役員歴 11 年】

技術士試験合格以降 11 年間、原子力・放射線部会の幹事をしています。今年 2023 年に定年を迎えました。ちょうど定年の年に日本技術士会 2023 年度会長表彰(第 2 号)をいただきました。定年後は時間の余裕ができると思っていましたが、現実はそのようなことはなく、現在サイト勤務をしています。



原子力・放射線部会の組織の中では、WEB・情報管理班に所属しております。また、日本技術士会統括本部では企画委員会に部会から推薦いただき委員として活動しています。これからも部会員の皆様のお役に立てるように頑張りたいと思います。

コロナ禍を経験することで部会の会議もリアルから遠隔での WEB 会議が普通に行われるようになりました。今後は東京近郊にいなくても部会の活動に問題なく参加できる環境が整ってきていると感じています。東京近郊以外の部会員の方もぜひ、部会役員になっていただき皆様が部会を牽引していただくことを期待しております。引き続き、よろしくお願いいたします。

写真は、表彰式後の寺井会長との写真です。

放射線の技術開発に取り組みます

青山 敬

【富士電機、2008 年合格、役員歴 8 年】

この度、日本技術士会の名誉ある会長表彰を受賞させて頂き大変感謝しております。会長表彰では長年にわたって部会



ならびに技術士会の発展に貢献したとお言葉をいただき、歴代の部会長をはじめ幹事ならびに部会員の皆様のおかげと感謝しております。

原子力・放射線部門の発展を願い、技術士を目指してから、国内外の諸プラント建設、震災と福島事故後の復興などに掛け替えのない時代を過ごさせてもらいました。役員になったのは、技術士会は役員にならないとその良さがわからないよとある先輩からご指導を頂いた事がきっかけです。

私は企画と広報関係の役員を 8 年と技術活性化委員会の委員 2 年を、企業内技術士として諸先輩や御同朋からご指導や叱咤激励を受けながら務めさせて頂きました。

ただ、やり残したことは多く、たどり着て今だ山麓の心境かと思えます。

定年を過ぎてこれからは一人の技術士として ”放射線の技術開発“で皆様のお役に立ちたいと思っております。

今後、若手会員の皆様が主導的に部会を運営でき、部会を牽引されることを期待し、陰ながら応援していこうと思えます。

これからも技術士として精進を積み重ねていきますので、よろしくお願いします。

~~~~~

発行：原子力・放射線部会

編集：総務広報班

発行日：2023 年 8 月 28 日